能登半島地震に関する中部教区の主な対応

2024.10.30 中部教区議長 加藤幹夫

１．災害マニュアルについて

「大規模災害発生時の中部教区としての初期・中期対応に関して」(別紙参照)

2023年10月17日教区常置委員会において可決

２．1月1日 能登半島地震発生

マニュアル初期対応(３日間)に従い、情報収集　教区ホーページに随時、公開

３．1月4日 臨時常置委員会Zoomにて開催　決議事項

① 現地訪問と見舞金

② 能登半島地震支援現地委員会（特別委員会）設置

委員 石川地区会長、石川地区書記、富山・教団常議員の３名

目的 被災地及び被災教会の状況確認と支援要求を教区に連絡し、教区三役と共に対応を協議する。

③ 能登半島地震特別会計の設置と教区募金

「被災された教区内諸教会・伝道所等における教会活動と再建支援のための募金」を開始

④ 地域の救援に関する件

教団が計画する救援活動に参加

主に教区は「教区内の被災教会・伝道所とその関係施設の支援」に取り組む

４．1月17日 教区議長が、羽咋教会、七尾教会を訪問

1月18日 教区議長と現地委員が現地から依頼された支援物資を持って、輪島教会を訪問

羽咋～輪島へのルートは所々寸断、通常の3倍以上の時間を要する

５．1月22日 地震発生から3週間経過(マニュアル中期対応終了)

依然として地域への支援は困難状況が続く

1月23日 現地委員による輪島教会の片付け

６．2月26,27日 教区常置委員会　決議事項

① 輪島教会、七尾教会、羽咋教会に2023年度負担金援助

② 輪島教会に2023年度謝儀援助追加支援

③ 富来伝道所 給湯器修理 教区支援拠点のために光熱水費援助

７．4月1,2日 教区議長、教区書記 羽咋教会・富来伝道所、輪島教会訪問

輪島教会の事務会計処理等を確認

８．4月 7日 輪島教会 信徒宅で礼拝再開

９．4月16日 教区臨時常置委員会　決議事項

①教区総会「能登半島地震被災教会支援に関する件」

②七尾教会（七尾幼稚園・羽咋白百合幼稚園）支援・改修について

③輪島教会支援・再建・改修ついて

再建へのプロセス 信徒宅での礼拝→仮設礼拝堂設置→会堂再建・牧師館改修

再建には時間がかかることを確認

④羽咋教会・富来伝道所支援・改修ついて

１０．4月29日 教区三役が七尾教会、羽咋教会、輪島教会、北陸学院を訪問

１１．5月13日 輪島教会 仮礼拝所設置 19日ペンテコステから礼拝開始

１２．5月21,22日 教区総会「能登半島地震被災教会支援に関する件」が可決

2024年１月１日能登半島地震によって、輪島教会、七尾教会、羽咋教会において、被害が発生。

2024年度、中部教区は３教会と関係施設の支援・再建を祈りつつ、以下の活動を行う。

①中部教区能登半島地震募金を継続する。

②能登半島地震被災教会支援のため、現地委員会の活動を継続して支援する。

③被災３教会に関して、2024年度教区負担金・助合伝道献金について全額相当の援助、

特別謝儀援助・特別伝道費援助を申請に基づいて実施する。

④輪島教会の一時的な礼拝場所を確保する。

⑤輪島教会の会堂再建と牧師館の改修と援助に向けて計画を進める。

⑥七尾教会の改修と援助に向けて計画を進める。

⑦羽咋教会・富来伝道所の改修と援助に向けて計画を進める。

⑧教会関係施設(七尾幼稚園と羽咋白百合幼稚園)の改修と援助に向けて計画を進める。

⑨上記４～８を進めるために、教団と協力し、教団に再建委員会設立を依頼する。

１３．「教団能登半島地震救援対策委員会」との連携

第２回（1/15）～第９回（10/3）　教区が議長陪席し、連絡を密にしている

＊今後「能登災害ボランティア窓口」となる

１４．「教団能登半島地震被災教会会堂等再建支援委員会」との連携　教区議長陪席

第１回（7/30）、第２回（10/3）　教区議長陪席し、連絡を密にしている

大規模災害発生時の中部教区としての初期・中期対応に関して

１.基本方針：①教区は教師とその家族の心身を守ることを最優先とする。
②教区は地区会長を通して被災教会・伝道所の被災状況を把握する。

説明：大規模災害発生時、特に初動では精神的、場合によっては肉体的なダメージを負いながら自分を含めた家族、教会員、付属施設の関係者などのケアに教師は専念せざるを得なくなる。教師が疲弊してしまわないように、教師に負担をかけないことが一番の助けになる。災害発生時は教区から直接、被災教会・伝道所に電話での安否確認はせず、地区会長と連絡をとる。

２.以下のケースを想定すると共に、想定外のケースには、臨機応変に対応する。

①教師自身も被災者となり、連絡を取り合えない場合がある。
②電気、ガス、水道、電話が使えない場合がある。
③住居や会堂が全壊し、パソコンやスマホすら使えない場合がある。
④道路の閉鎖、電車の運休により移動できない場合がある。

３.教区としての「初期」（大規模災害発生時から約３日間）対応

①初期の段階では救援対策本部は作らない(本部の者たちに過度の負担をかけないため)。
②地区会長からの連絡を待ち、教区からは早急に被災教会・伝道所に問い合わせない。
③教区事務所へのメール等は事務所が閉所していても教区三役に転送される。
④安否確認や連絡等は原則、教区と地区会長との間で行う。
⑤被害状況が把握できた段階で教区の HP を用いて被害状況等を発信(教区書記)する。
⑥情報の混乱を防ぐため、個人ではなく教区として責任のある情報を HP により発信する。
⑦教区が早急に問安やボランティア派遣はせず、被災教会・伝道所からの要請を待つ。
⑧議長が臨時常置委員会を招集し、上記の基本方針に沿った今後の対応を協議する。

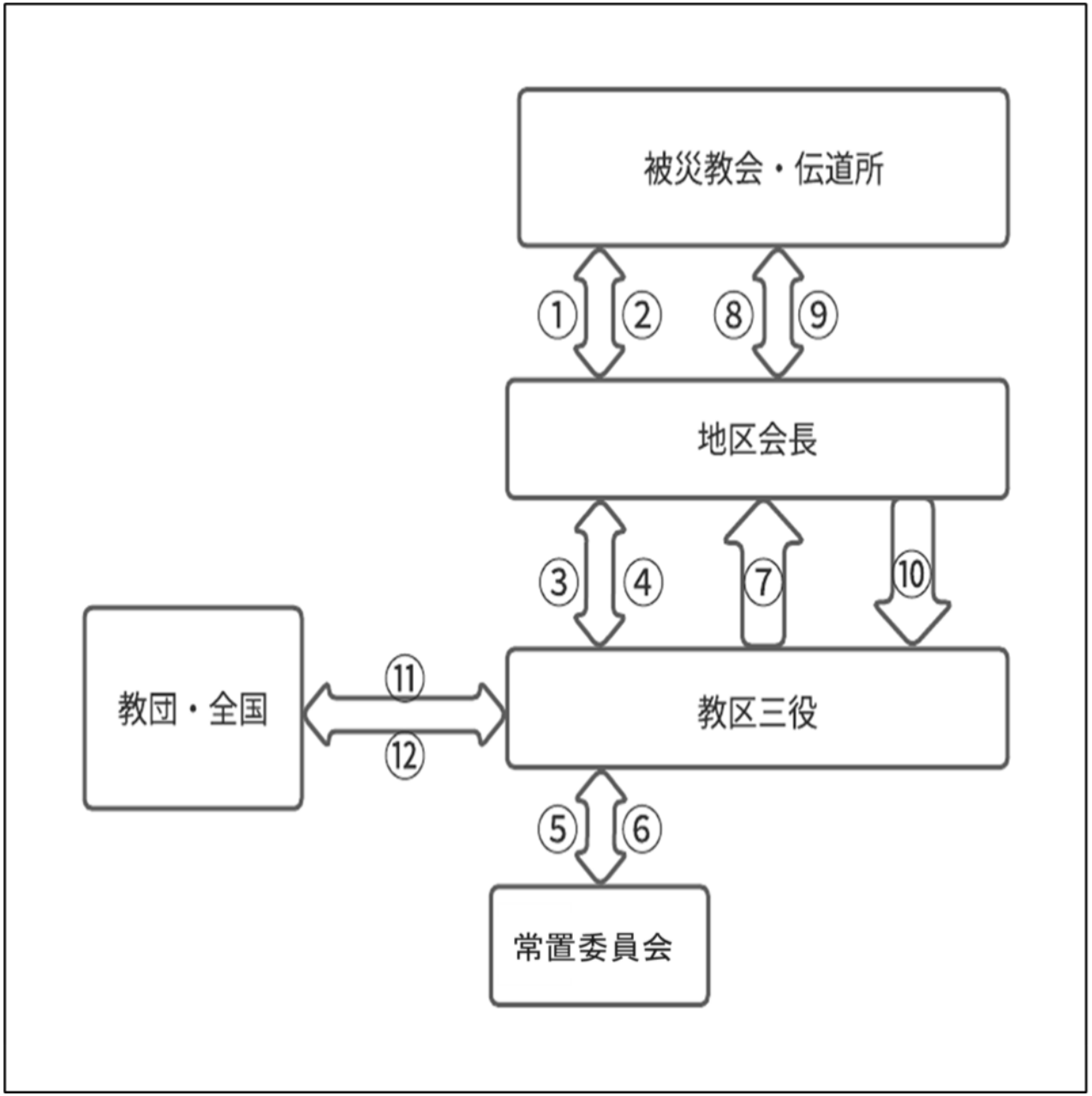
４.教区としての「中期」（大規模災害発生時から約３週間）対応

①「お見舞い金」に関しては、金融機関が正常に戻った時点で、教区三役の判断により、とりあえず「教師互助会」から５万円程度を送金する。「災害救援基金」はお見舞い金以外の救援活動に用いる。
②被災教会・伝道所から教区に「救援金」の要請があった場合は、教区三役もしくは臨時(常任)常置委員会で判断する。
③常置委員会の判断により緊急救援募金を全国の諸教会に呼びかける場合、教団事務局および教団社会委員会と協力して行う。その窓口と管理は教区(事務所)が行い、配分等については常置委員会(地区会長陪席)で協議し、決定する。

以上

※上記の「大規模災害発生時の中部教区初期・中期対応に関して」は宣教研究部の報告を受け、教区三役で作成し、2023 年 10 月の常置委員会(各地区会長 ZOOM 陪席)で承認されたものです。各地区委員会や地区の教師会等でご周知くださいますようにお願いいたします。

＜大規模災害発生時の中部教区としての初期・中期対応時系列　マニュアル図＞



①地区会長に、その地区の方法で被災状況を連絡

②被災教会・伝道所から 24 時間すぎても連絡がない場合は、地区会長から、その地区の方法で被災状況を問う

③地区会長はメール等を用いて教区事務所に連絡

④教区三役は地区会長とメール等で連絡を取りながら協議

⑤Web を用いて教区議長が臨時常置委員会を招集

⑥臨時常置委員会で今後の対策を協議、決定

⑦教区三役から地区会長にメール等で伝える

⑧地区会長から被災教会・伝道所にメール等(問安)で伝える

⑨被災教会・伝道所から要望を聴く

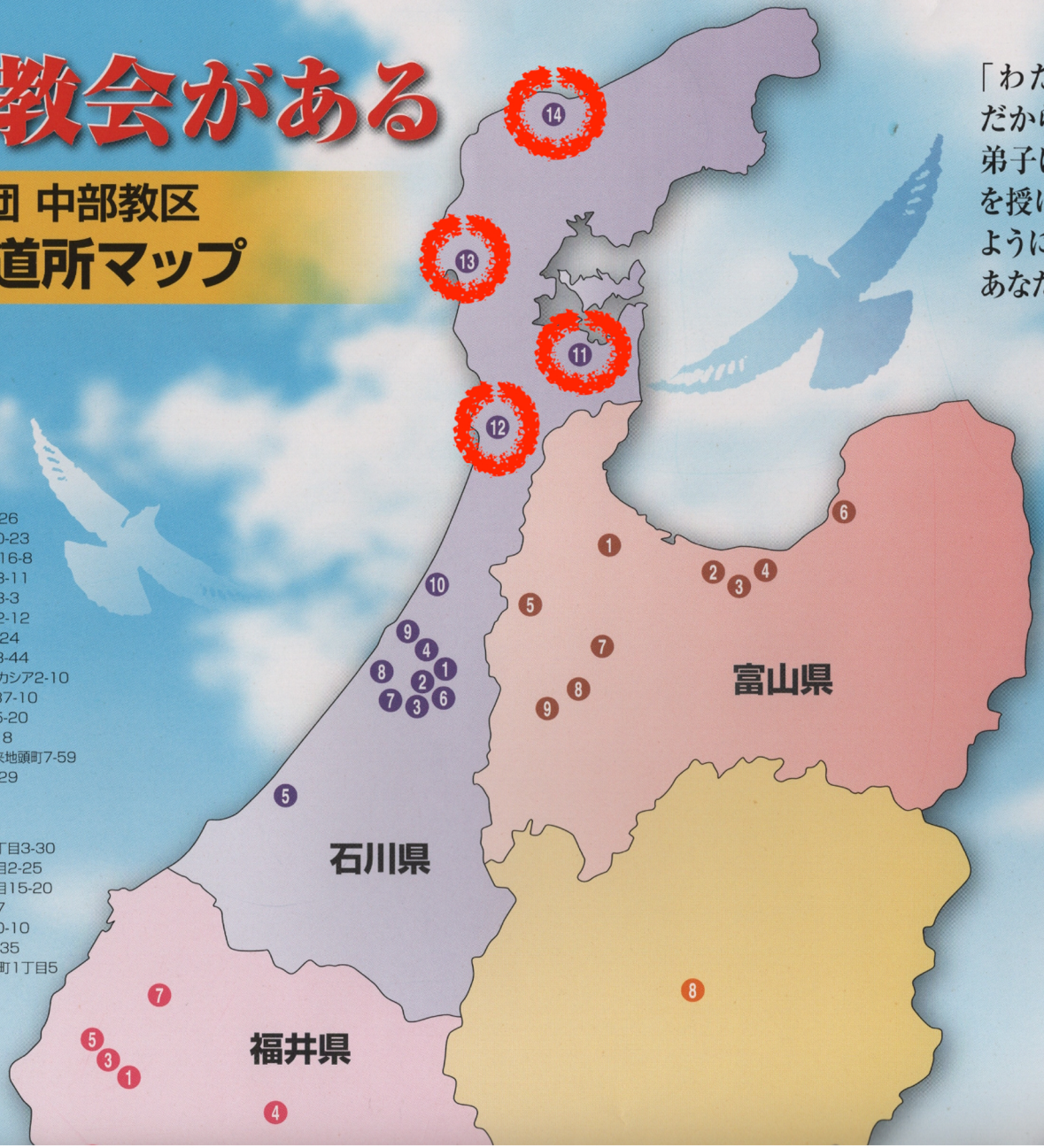
⑩教区三役にメール等で伝える

⑪正確な被災状況を把握した時点で HP を用いて、全国に発信(書記)

⑫教団と緊急救援募金等の協議と対応

ここに教会がある

日本基督教団 中部教区
教会・伝道所マップ



石川地区

1	金沢教会	金沢市柿木畠5-26
2	金沢長町教会	金沢市片町2-10-23
3	金沢南部教会	金沢市泉が丘1-16-8
4	金沢元町教会	金沢市元町2-13-11
5	小松教会	小松市本町3-13-3
6	桜木教会	金沢市寺町2-12-12
7	白銀教会	金沢市芳斉2-2-24
8	若草教会	金沢市若草町13-44
9	内灘教会	河北郡内灘町アカシア2-10
10	恵泉教会	かほく市浜北ハ37-10
11	七尾教会	七尾市馬出町75-20
12	羽咋教会	羽咋市本町コ118
13	富来伝道所	羽咋郡志賀町富来地頭町7-59
14	輪島教会	輪島市河井町3-29

福井地区

1	城之橋教会	福井市日之出3丁目3-30
2	敦賀教会	敦賀市本町2丁目2-25
3	福井神明教会	福井市大手3丁目15-20
4	大野教会	大野市本町10-7
5	如鷺教会	福井市日光2-10-10
6	武生教会	越前市姫川1-5-35
7	丸岡教会	坂井市丸岡町霞町1丁目5

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

（マタイによる福音書 28章18～20節）

2024年1月1日午後4時10分、石川県能登地方を震源とするマグニチュード（M）7.6の地震があり、同県志賀町で最大震度7を観測したほか、輪島市や珠洲市など能登地方の広い範囲で震度6弱以上の揺れが観測された。揺れによる土砂災害や家屋倒壊のほか、輪島市を代表する観光名所「朝市通り」では大規模火災も発生し、多くの人的被害や建物の被害が生じた。物流の大動脈である「のと里山海道」などの幹線道路も各地で寸断され、救助活動を難航させた。

また地震の影響で津波も発生し、珠洲市や能登町、志賀町で計190ヘクタールが浸水。一方で輪島市など半島の西側では、海岸が盛り上がって水位が下がる「海岸隆起」も引き起こされた。隆起の大きさは、国内の地震では観測史上最大級とみられている。

（北陸中日新聞webサイトより）

2024年１月１日
能登半島地震　最大震度７
輪島教会の会堂と牧師館の状況

教会看板は、発災前日の
説教題のまま

牧師館
隣家が倒壊し、隣接する牧師館の壁に穴があいています

牧師館玄関前

牧師館周辺
地割れがあります

１月 18 日、中部教区議長と現地委員が輪島教会を問安し、避難所にいる新藤牧師と信徒たちに支援物資を届けた。途中の道路は地割れしたり崩落したりしていたため、一方通行や時間通行止めもあり、通常の倍の片道 ４ 時間程度かかった。

1～3 月まで礼拝は避難所の片隅で 2～3 名で行い、4～５月は比較的被害が軽度な教会員のお宅を借りて毎週行った。写真は４月７日の礼拝後。

５月１０日
会堂横のスペースに、仮礼拝堂としてプレハブの設置作業が行われた。

輪島教会の仮設礼拝所

5 月 13 日（月）、全壊した輪島教会堂の隣に仮設礼拝所が設置され、引き渡しが行われた。

仮設礼拝所に、輪島教会の礼拝堂の十字架、講壇、長椅子 3 脚が運び込まれた。

長年使用してきたリードオルガンは礼拝堂から運び出され、工房和久井にて修繕される。

仮設礼拝所の引き渡し式には、輪島教会から新藤牧師や信徒、教区現地委員、教団救援対策委員の他に、NCC、カトリック、近隣教会の方々など計 31 名が集い、共に祈り、喜びを分かち合った。

仮設礼拝所内

5 月 19 日（日）ペンテコステ礼拝から仮設礼拝所の使用を開始した。その際、震災後初めて聖餐が執行された。広さは 10 畳程度で 10 名入ればいっぱいになる。

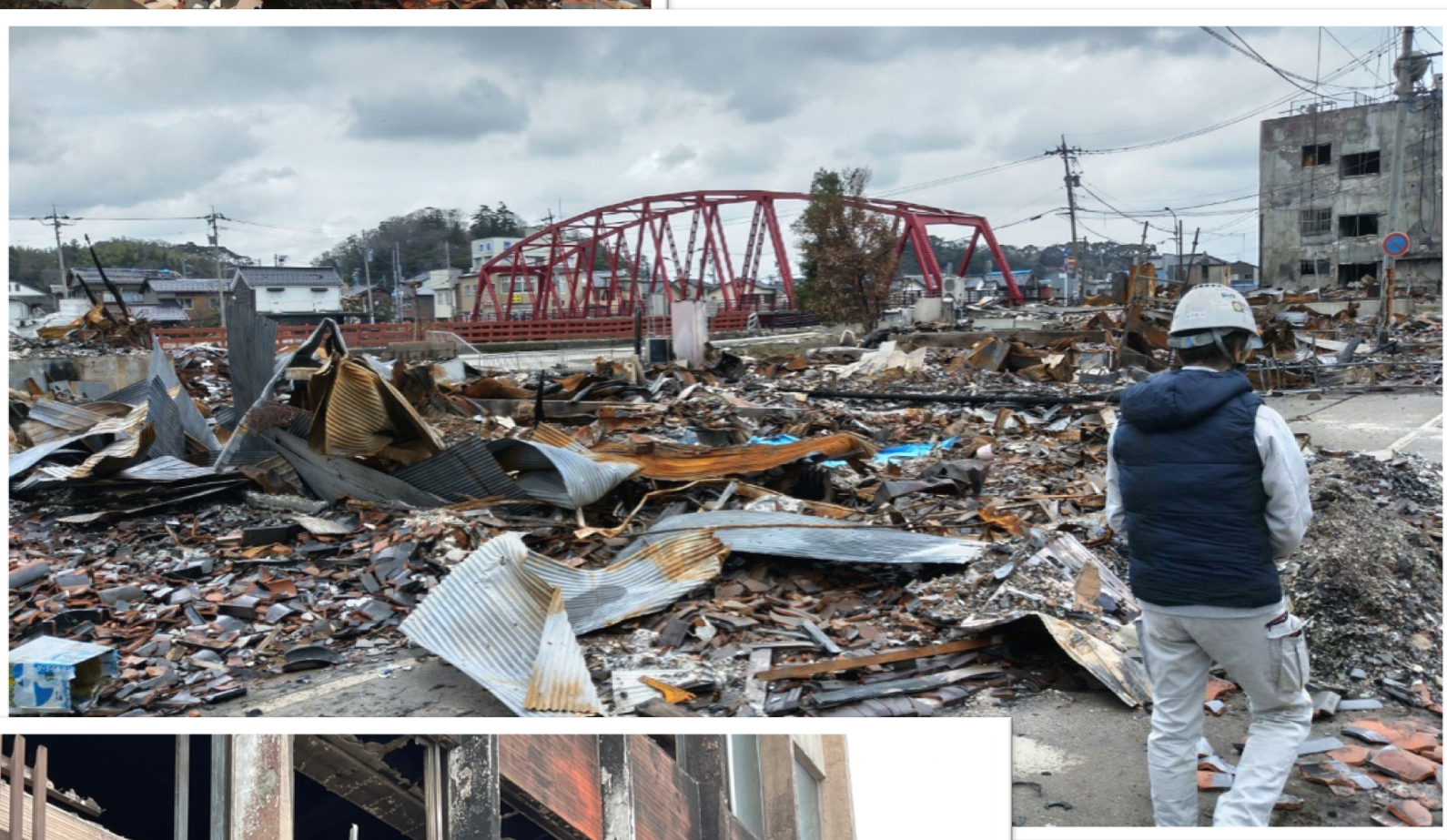
ペンテコステ礼拝のようす

輪島市内の被害（1 月 2 日の教会周辺）

教会から歩いて 5 分に場所にある倒壊したビル。
10 月より公費解体が始まった。

朝市通り周辺の大規模火災跡

１月４日



２月 23 日

海岸は最大４ｍ隆起した。テトラポットの先がかつて海岸だった。

９月 21 日（土）能登半島豪雨発生(教会周辺)

構成：中部教区現地委員会

輪島教会　新藤豪牧師

輪島教会は、1913 年に創立しました、ですから 2023 年はちょうど創立 110 年目となりましたが、2024 年の 1 月 1 日の能登半島地震によって礼拝堂は全壊となりました。そのため教会員の多くが二次避難のため輪島をはなれました、まだ住居関係のことで輪島に戻ってこられない方もいます。1 月から 3 月までは避難所で輪島聖書教会の方と一緒に 4 名ほどで讃美歌をヒムプレーヤーで一緒に歌い礼拝し、4 月からは、戻って来た教会員の自宅をお借りし礼拝しました。5 月 13 日にはユニットハウスの仮礼拝堂が設置されました。元の会堂から長椅子と講壇運び入れ、5 月 19 日のペンテコステからこの仮礼拝堂で礼拝をささげています。またこの日に輪島では地震後初めての聖餐も行いました。礼拝の平均出席数、前年度 12 名、今は 7～8 名です。

近所の方がこのユニットハウスの設置の様子を見て、自分の敷地内にも設置したいと言って、この業者に注文した方がおられます、またこの仮礼拝堂を見て復興のしるしのようで嬉しいと言ってくださった方もいます。7 月と 8 月には日本基督教団を通してボランティア方たちが来て下さり牧師館の清掃や教会倉庫や書類の整理をしてくださいました。

4 月以降徐々にスーパー、飲食店等が再開し始めていましたが、9 月 21 日の豪雨の浸水によりコンビニエンスストア 2 店、飲食店 5 店ほどが閉店となりました。教会、牧師館、教会員宅は浸水しませんでしたが、家が壊れた教会員が、実家の倉庫に置いたその荷物が浸水被害のためだめになりました。また土曜～日曜は停電になり週報印刷もできませんでした。震災後、町の人たちが希望をもってがんばろうと言っていた矢先に水を差す、そんな結果の大雨でした。

礼拝堂は公費解体の予定ですが日程はまだ決まっていません、牧師館の風呂もまだ使えません。しかしながら多くの方々のお祈り、お支えに包まれていますことをあらためて思い感謝です。まことにありがとうございます。「輪島のために祈らずにはいられない」その言葉を聞くたびに祈って下さるお姿と主のみ姿を思いつつ、励まされています。

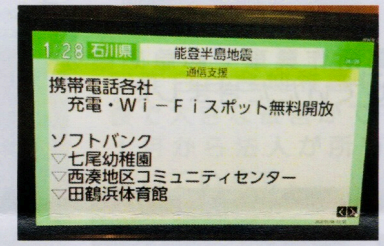
能登半島地震報告　（七尾教会　七尾幼稚園　羽咋白百合幼稚園）　２０２４年５月１０日現在

２０２４年１月１日、能登半島地震発生。七尾は震度６。大津波警報が発令されました。

地震直後、被害がすぐ目についたのは、２階部分でした。内壁が落ち、エキスパンジョイントが落ちていました。

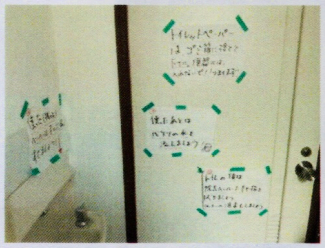
幼稚園園庭の一部には液状化も見られました。
礼拝堂・園舎とも外壁のクラックは無数にあります。

幼稚園に隣接する小丸山公園が、「津波避難所」であった為、１日夜に公園にあがった方々を臨時に避難する場所として使えないかと、地域の防災士さんからの申し出がありました。
幼稚園は電気が使用でき、断水中ではあったものの井戸水の使用が可能だったため、臨時の避難場所として開放しました。１日夜は１２０名ほど、２日～７日までは６０名ほどの方が園内で過ごされました。



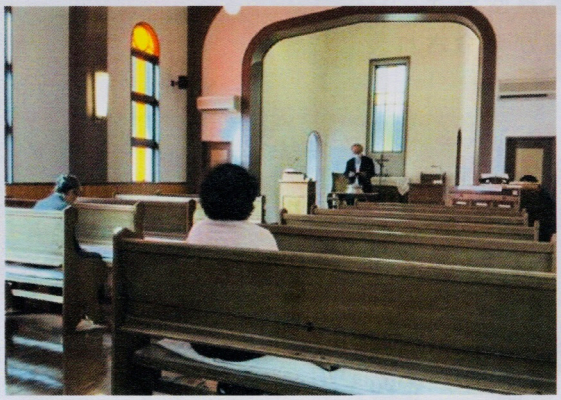
３日からは支援物資も届けられるようになりました。

トイレは井戸水をバケツで流す。
トイレットペーパーはゴミ箱へ。
手洗いせずに消毒液というルール。



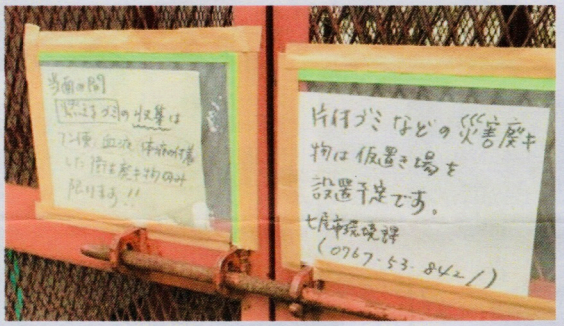
技能実習生が複数名滞在していた為、Wi-Fi スポットも設けられました。

１月８日（祝）に全員が次の避難所にお移りになり、臨時避難所としての役割を終えました。



七尾教会の主日礼拝は、１月７日から通常通り守られています。第一主日に聖餐式もされています。

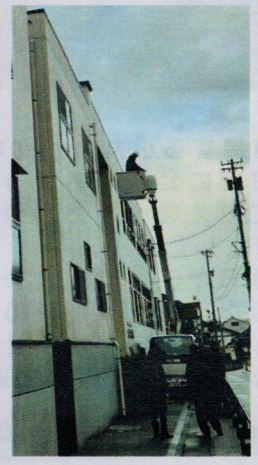
幼稚園・学童保育は１月５日から受け入れを開始。
小学校は最初はオンライン授業期間もありました。



ゴミの収集は衛生ゴミのみの受付が続き、通常通りになるまでに１ヶ月かかりました。

JR七尾線が金沢まで運行再開となった時には、教会員が取材されました。

幼稚園玄関上のクラックが大きくなり、落下の危険が指摘されました。



高所作業車で応急処置をしていただきました。

教会に隣接する小丸山公園の展望台に亀裂が見つかり公園は立ち入り禁止となりました。

断水中のトイレ

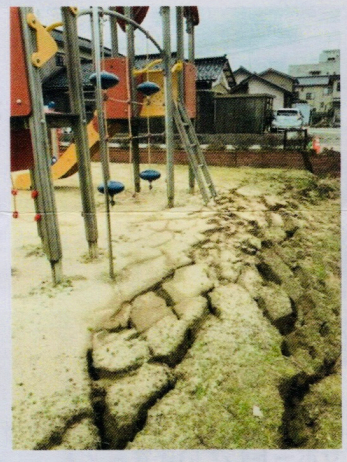
１月下旬、七尾市の斡旋により給水タンクが設置されました。全国からの給水車が来て下さいました。
２月８日に通水を確認。２０日から飲用可となり、タンクが撤去されました。

屋上のひび割れの為、雨漏り。

予定より早い断水解消だった為、支援物資でいただいた「水」などは、北陸学院宗教センターを通じて、奥能登の被災地に送りました。

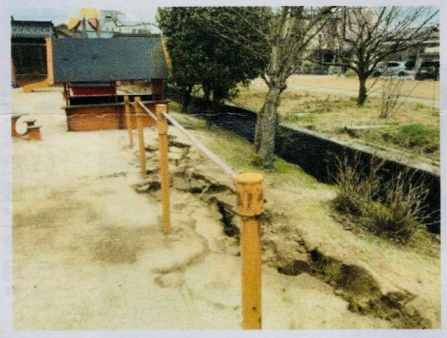
七尾教会から歩いていける教会員の家屋は大きく被災しています。
教会関係者のお家で全壊となっている所もあります。
七尾幼稚園教師の自宅でも、半壊のものが複数います。

２月長老会



羽咋白百合幼稚園は、地盤沈下、亀裂で大きな被害がでています。
１月から法人が所有する別施設で運営しています。
５月連休明けから工事が始まりました。通常の保育室に戻れるのは６月、園庭で遊べるめどは立っていません。

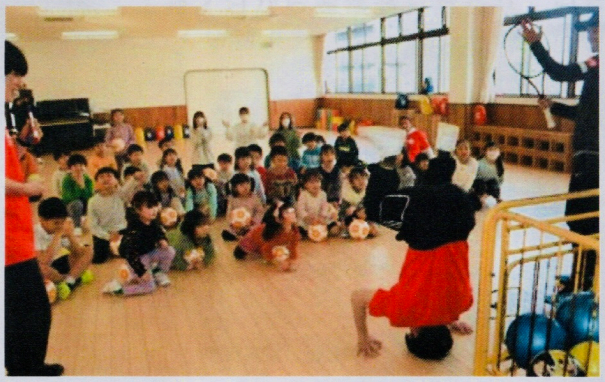
羽咋白百合学院は釜土達雄が理事長をつとめています。



３月３１日、イースター。
七尾教会教会学校のイースターは、幼稚園の卒業生に案内を出して、教会学校のイースター礼拝と卵探しをしました。１９名の出席がありました。（通常は０～２名の出席です。）

七尾教会主日礼拝後、
イースター愛餐会。

七尾幼稚園、七尾教会にはたくさんの励ましをいただきました。



ボランティア活動の途中で立ち寄ってくださった方、遠くの幼稚園からのメッセージ

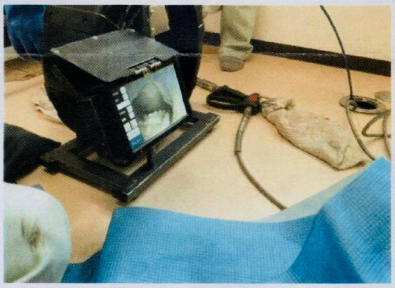
サザエさん、アスリートの方々、そしてピカチュウも来てくれました。

全国の諸教会からのメッセージは教会の玄関に掲示しています。

４月３日には、日本基督教団総会議長の雲然先生が来て下さいました。

七尾幼稚園屋上より

羽咋白百合幼稚園内部



４月中旬、それまで使用できていた子供用のトイレがつまってしまい、しらべていただいたところ、下水管の破損が見つかりました。子どもたちのトイレの一部が使用できなくなりました。５月中旬には工事できる予定です。

５月、七尾教会の森山奈美長老がＴＶ出演。
能登復興ネットワーク事務局長として、様々な復興支援活動をつなげてサポートしています。

元日に起きたという特殊性もあり、復旧工事がなかなか進みません。今も倒壊した家屋の解体はほとんどおこなわれていません。時計は止まったままです。

能登半島は東京都と同じ広さがあり、地域の復興には大変な時間がかかると思われます。

どうか能登を忘れずに覚えて、お祈り下さい。

作成：七尾教会　執事会

七尾教会、七尾幼稚園、七尾市等のようす

（７～10 月の七尾教会のブログより引用させていただきました）

７月１日

能登半島地震から半年。復興が進んでいると思う人は少ない。いやほとんどいないかもしれない。壊れた建物がそのままになっている状況に慣れてしまっている。そんな中で、名古屋市の幼稚園から絵本のプレゼントが届いた。

朝、みんなに紹介すると歓声が上がる。みたいと声が上がる。クラスごとによみきかせ。笑顔。その笑顔をみて思う、幼稚園ができる事。子どもたちの笑顔をいっぱい作る事。復興の中で頑張っている若いパパママなどのお家の皆さんは、この笑顔に元気づけられるんだ。

７月４日

教会員の O さん宅の解体が進んでいる。ガッシャン壊すというより、少しずつ少しずつ家の形がなくなっていく。今日見たら半分なくなっていた。解体業者さんの車を見ると、金沢、富山、豊橋ナンバー。いろんな所からきてくれている。O さんの娘さんと同級生の幼稚園教師に見せる。「あー、思い出の場所がなくなった」よく遊びに行った家。間取りまで知っている家。解体が進まないと、復興は進まない。でも建物が一つ無くなるたびに寂しさがある。

７月１５日

昨夜は大雨で、七尾市にはいろいろ警報が出ていました。朝、いつも雨漏りしているところを見に行くと今回は何も無し。ああ良かったと思ったら、牧師室に雨漏り。いろいろあります。このくらいは仕方ない。

７月３１日
　公費解体が進む七尾。街を歩くと、空き地に出会います。あれ？ここには何があったんだっけ？幼稚園に戻って、「あそこなんだっけ？」と先生たちに聞いてみる。誰も即答できない。ああだこうだとはなしあって、住宅地図を引っ張り出しても？？この会話をこれからなん度も繰り返していくのだろう。なんて事のない家。だから、どんなだったかおもいだせない。

８月２日
　ブログ読んでくださっている方から、子どもたちのためのプールをいただきました。どこで使ってもいいですよと言うメッセージと共に。職員でいろいろ相談した後、学童に来ている小学生のところへ。今年の夏、七尾のほとんどの小学校のプールは使えません。今日、とっても楽しそうに水遊びをした子どもたち。この子たちも断水中は、節水節水の生活でした。水汲みの手伝いをしてた子もいます。大胆に水を使う子たちを見て、プールをくださった方に感謝。

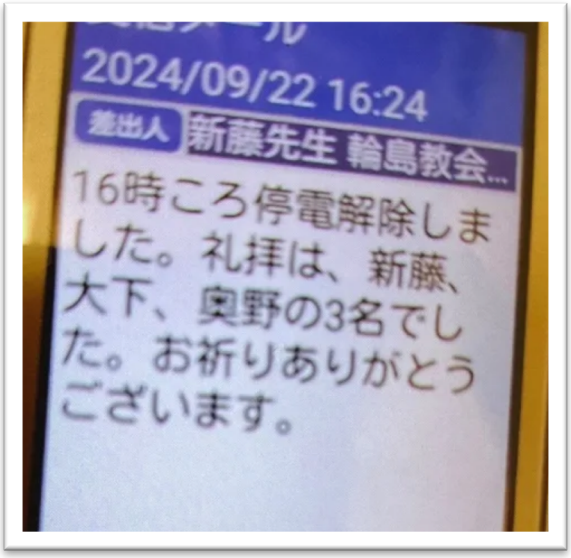
８月９日
　幼稚園の斜め向かいの家の解体が７月 16 日から始まった。どのくらいかかるか、正確に見守ろうと思い、写真を撮りながら見守る。２週間ぐらいで終わるかなと思っていたのだが……なかなか進まない。
　２００７年の経験では、解体始めますと言われて、ある程度片付けたらすぐに重機が家をバッシと叩き壊した。でも今は違う。廃材をできる限り分別する。それにとっても時間がかかる。そし分別したモノごとに運び出される。その上、時々作業が止まる。今回はたくさんのチームが県外から入っていると聞いている。たくさんの解体申請があるから、あっちもこっちもあるのだろう。一つの家屋に一か月。このペースで年内にどこまで進むのかわからない。

８月１３日
　日曜日の午後に 1～４年生の会、月曜の午後に 5、6 年生の会を行った。地震の影響もあって例年通りに行うかどうか、CS 教師たちでは議論があった。森山長老の提案で、この地域にボランティアに来ている人たちに手伝ってもらうことになった。日本各地から、いや実は海外からいらし方もいたボランティアさんたち。子どもたちの相手ですという募集をしたので、日頃から教育や福祉に関わっている方が多かった。特に教会関係者ではなかったが、一緒に礼拝をし、食前のお祈りをした。皆さんとってもすてきな方で、お掃除なんかも積極的。何よりちょっと複雑な気持ちを抱えている子供達にも寄り添っておしゃべりし、仲良しに。地震の後、何だかんだとちょっと我慢している小学生たち。そんな一人一人のことを知っている私としては、楽しい楽しい会にしてあげたいと願っていて、そうなったことに本当に感謝。

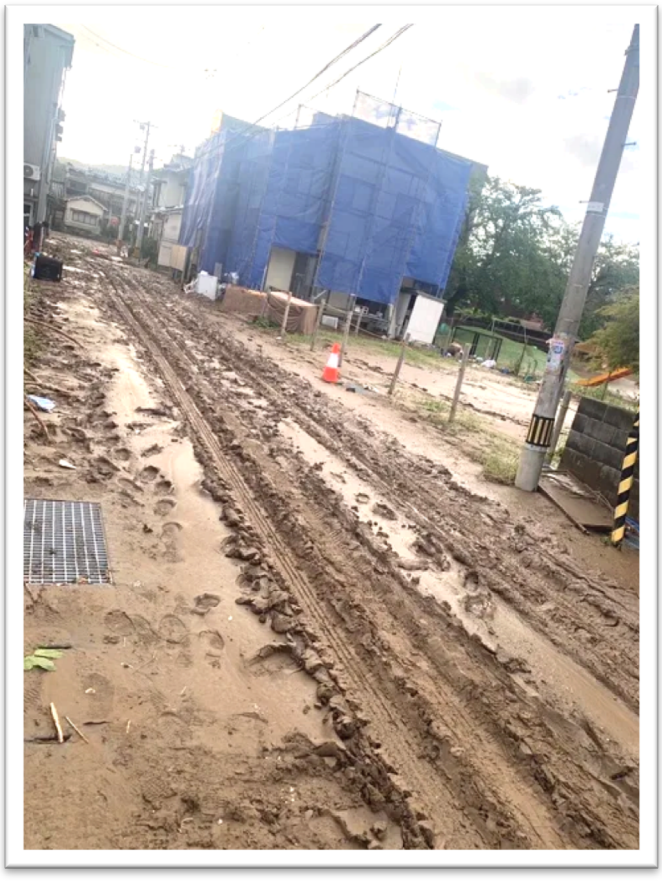
８月１７日
　ご近所のガソリンスタンドが昨日から営業再開。地震の翌日、翌々日、少しでもガソリンを販売しようと頑張ったスタンドだ。その後、軽油タンクなどに損傷が見つかって、ずっと修理工事。最初は GW 明けには終わると聞き、６月には…と延びていき、結局８月。特殊な工事だから。とにかく工事完了、営業再開。一つ一つそうなっていくのは感謝。
　けれど一方で、教会幼稚園の工事が始まらないことに焦りはある。毎日傷ついた壁を見ているのは疲れる。早く取りかかれないものか…いやいやうちはマシな方なんだから…複雑な気持ちである。

９月８日
　９月長老会。今日は７０８０の長老が欠席なので、牧師が最年長。壁が落ちたまま、エキスパンジョイントがぶら下がったまま、の場所で会議。最初の頃はなんだか落ち着かなかったけれど、今はみんな慣れてしまった。

９月２１日
知人のスマホに送られてきた輪島の写真



９月２２日
新藤先生からのメール。停電解除。
礼拝も守られたようです。



９月２３日
昨日、森山さんから送られてきた輪島の写真です。水が引いた後の道路。道路の復旧がすこしでも進むように願うしかないようです。

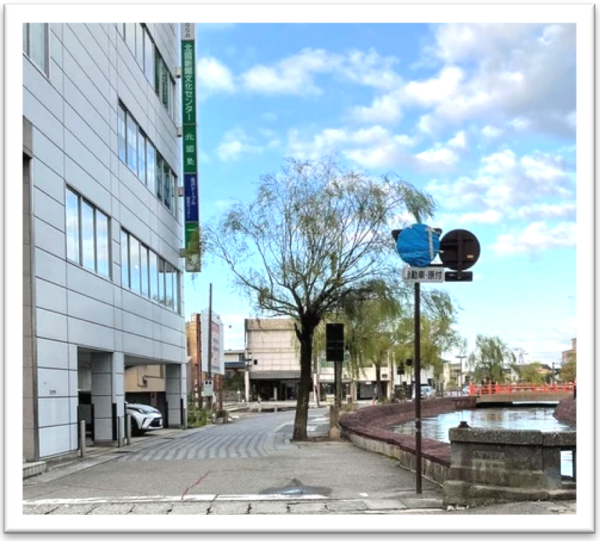
９月２３日
　今、能登半島にあるいろんな支援グループが体制を整えています。多分、たくさんの助けが必要です。ただ、１月の地震で体験したのは受け入れる体制が整っていなかったので、すぐにボランティアさんに来てもらうのは大変だったと言うこと。今回も、地域によって停電していたり、断水していたりといろんな状況があります。軽々に動ける状況ではないようです。教会の建物に新たに被害があったと言うわけではありませんが、能登が大変なことになっています。たくさんの人の支えと祈りが必要です。８月末に自衛隊が撤収し、９月に各地で避難所が閉鎖され、仮設住宅が使われ始めたところでの大雨。この雨での被害はほとんどない七尾の者でも心が折れます。お祈りください。

9月29日
すてきなメッセージカードをいただきました。その教会から見上げる星空を思い浮かべつつ。ありがとうございます。

10月6日
　９名の出席。聖餐式執行。地震後も毎週礼拝に出席していた姉妹が骨折した為、しばらく礼拝出席が難しいことが報告されました。早く回復されますように。

構成：現地委員会

9月30日
　七尾幼稚園の主任をしている教師の家の解体が今日から始まった。午前中は仕事を休んで、立ち会っていいよと声をかけたが、逆に仕事していた方がいいというのでいつも通りに出勤。普通に仕事しているのだが、他の教師が今日からでしたねと声をかけると、一瞬涙目になる。地震以来ずっと解体すると覚悟していたようだが、いざ始まるとやはり悲しい。そんな気持ちを自分の２００７年の気持ちと重ねる。ぼろぼろの牧師館だったけど、シロアリに食われてたけどなんとも言えない悲しさがあった。昨日は家族で写真を撮って家とお別れしてきたという。



10月9日
　七尾市解体第一号と言われていた一本杉通り入り口の薬局の解体が終わったようだ。解体が進む中で、今まで見慣れていた建物がなくなっていく。空き地が増えて隠れていたものが見える。一方で、使えると判断された建物は、衣替えのように役割を変えている。廃園になった保育園の園舎が災害ボランティアの拠点に。レンタルやさんの建物が介護ステーションとカフェに。しゃぶしゃぶやさんが歯医者さんに。パチンコやさんが建築会社の営業所に。電力会社の社宅がアパートに。
　県の発表で、輪島の大規模豪雨被害の方の二次避難先として、和倉や能登島の名前があった。１月２月には七尾市断の水などで大変過ぎてそんなことはできなかったが、今回はそんな役割ができるようだ。能登全体の復興。そんなことを考えている夜、久しぶりの緊急地震速報。震度２。また珠州や輪島揺れているのだろうか…それにしても速報音はいつも辛い。震度２で出さないとダメかな。

七尾教会　七尾幼稚園　羽咋白百合幼稚園　ゆりっこ児童クラブ　報告　　釜土達雄

１月１日午後４時１０分。あの日、あの時の能登半島地震。七尾市には震度６強の地震が襲いました。また、羽咋市には、震度６弱の地震が襲いました。地震からしばらくして、大津波警報が発表され、多くの人が、地震直後に、避難場所に逃げ込むという光景が見られました。

あの日の地震には、いくつかの特徴がありました。
①元旦であったということ。
元旦でしたから、実家に里帰りしていた若者や、家族がそろう大切な日として、いつもは年齢が高い人々の町が、たくさんの年齢層にあふれる町並みになっていました。
元旦でしたから、多くの商店街はお休みで、会社も休み、自宅で過ごす人がほとんどでした。
②午後４時１０分の地震の前に、震度５強の前震がありました。
わずか４分前でしたが、それなりに大きく揺れたため、いったん家から出た人がたくさんいました。その後に、本震が襲ったのでした。

このような事情のため、たくさんの建物が全壊、半壊、倒壊しましたが、倒壊した会社建物や商店でのけが人は少なく、また、帰省していた若い人が、ご自宅で生活するお年を召された方を、外に連れ出してくださいました。その後、大津波警報が発令されましたが、みんなが声かけ合って、避難場所に行くことができたのは、これまた、このような事情の故でした。

七尾教会と七尾幼稚園は、能登半島のほぼ中央、七尾市旧市街の御祓（みそぎ）地区にあります。その地域の人々の津波の時の避難場所は教会と幼稚園に隣接する小高い小丸山城址公園です。確かに避難場所ですが、避難建物があるわけではなく、ベンチがあるわけでもなく、散策型の公園です。いったんは避難はしてみたけれども、寒さの中で、３０分も立っていれば疲れてしまいます。そこに、何百人という人が集まってしまいました。
もちろん地震と同時に、公園近くの指定避難所の公民館などの鍵が開けられましたが、施設の広さと比較して人が多すぎる。そこで、公園に隣接する七尾幼稚園と七尾教会にも、地域防災士の方から臨時の避難所の要請があり、お受けすることになったのです。

七尾教会と七尾幼稚園の一部は、２００７年の能登半島地震の時に、全国の諸教会の皆様のご理解により建て直させていただいたもの。被害はありましたが、倒壊する心配はなく、臨時の避難所となりました。１月１日の夕方５時頃から、わずか８日間でしたが、たくさんのドラマとともに、良き働きができたと自負しております。
ただその後、七尾市旧市街は、全壊、半壊がほとんどで、ほんの少しの一部損壊の建物がある程度。そこで暮らしている人は、地震の後、ほんの少しになりました。現在、公費解体も本格的になり、これからあちこちにたくさんの空き地ができて、これから町の形は一変することでしょう。若い人の流出も急激に進んでいます。能登が壊れていく。そんな現実を前にして、悲しい気持ちになっています。

七尾教会と七尾幼稚園は、４つの建物がエキスパンジョイントによって接合され、一体建物として運用されています。異なる構造の建物同士を結び合わせるため、地震などの揺れの時には、それぞれの建物が違う揺れ方をします。建物同士がぶつかって壊れないように、クッションの役割を果たし、また大きな揺れの時には自らが壊れて建物に損傷を与えないようにする。それが、エキスパンジョイントです。そこの部分が、見事に役割を果たし、壊れて建物を助けてくれました。
２階建ての鉄骨造ですから、地面に近いところは大丈夫でも、２階部分は揺れが大きく、たくさんのとこりにひび割れがあります。外壁もあちこちでひびが入っており、また、落下している壁もあります。雨漏りが悩みです。教会駐車場も、道路よりも少し高いため、修理が必要と診断が出ています。
七尾幼稚園の震災復興の補助金のための国の査定は、１１月６日と決まりました。時間がかかっています。お祈りください。

七尾市より南の羽咋（はくい）市の被害は、七尾市以北と比較するとそれほどでもありませんでした。けれども、活断層の亀裂のように、一定の幅で、一定の距離に沿って大きな地震の被害となった地域があります。千里浜海岸から、ＪＲ七尾線を通り、羽咋市後坊山（ごぼやま）町、松ヶ下町を通って、羽咋高校、余喜（よき）保育所へと至る狭いけれども、長い距離の被害地域です。避難所となっていた羽咋高校は、損傷が大きく当日の避難所となることができず、余喜保育所は園舎の復旧はできないと判断され、廃園が決まりました。

その地震の通り道の中に、羽咋白百合幼稚園もありました。園舎本体の基礎は大丈夫でしたが、地盤沈下によって、ほぼすべての保育室の床がへこみ、保育ができなくなりました。増築した０歳児１歳児用の木造建物は、杭基礎ではなくベタ基礎だったため、建物自体が傾き、建て直しとなりました。使用できなくなった期間、園舎に隣接する子育て支援センターで保育を行こととなりました。半年を経て、２歳児以上のお部屋は工事が完了し、６月１０日に園舎での通常保育が始まりました。一方、０歳児１歳児のお部屋は、未だに工事が始まっておりません。国の査定もまだですが、先行工事が認められていることは、感謝です。けれども、業者の手配がつかず、着工できていないのです。

少し離れた羽咋白百合幼稚園の旧園舎であった、放課後児童クラブのゆりっこ児童クラブは、すでに国の査定が終わり、工事が認められています。けれども、こちらの方も業者の手配がつかず、工事はまだとなっています。特に、浄化槽が割れてしまったため、浄化槽をやめて下水につなぐ工事が行われることになっていますが、能登全域で同じことが無数に起こっていますので、順番待ちです。なお、羽咋白百合学院のその他の施設に、地震被害はありませんでした。

七尾教会と関連する学校法人七尾学院の七尾幼稚園・七尾放課後児童クラブの震災復興には、まだまだ時間がかかります。羽咋市にある学校法人羽咋白百合学院の、羽咋白百合幼稚園とゆりっこ児童クラブの震災復興工事も、まだまだ時間がかかります。皆様のお祈りの中に加えていただいていることが、心の支えです。

けれどもこれらの教会と関連施設のことだけではなく、能登全体のことが、気がかりです。どうか、能登のためにもお祈りください。私たちの教会が、祈り続けている愛する能登です。そこには、関連施設の幼稚園の園児がおり、保育園の園児がおり、卒業生たちがいます。放課後児童クラブに集うこどもたちがいます。そしてその保護者の皆様がいます。加えて、彼らを愛してくださっている地域の人々がいます。その一人ひとりのためにわたしたちは祈っています。そして何よりも、主にある教会員一人ひとりがいます。みんな地域のために祈っています。自分のため、家族のためだけではなく、愛する能登のために、祈っています。

私たちの愛する能登のために、これからも、私たちと祈りを合わせていただければ、本当にうれしく、感謝です。能登のこと、忘れないでくださいと、心よりお願いいたします。

ご依頼によって七尾教会と七尾学院、羽咋白百合学院のことに限定して、記しました。
輪島教会のこと、羽咋教会のこと、富来伝道所のことも、私たちの祈りの中にあります。
皆様の、多くのお祈りと、お支えとに、心より感謝しつつ。　　主にありて。

日本基督教団　七尾教会牧師
学校法人　七尾学院理事長
学校法人　羽咋白百合学院理事長
釜　土　達　雄

羽咋教会　能登半島地震 被災教会報告

地震発生直後、富来伝道所から羽咋教会に戻る道中、二車線の道路で崖崩れがおき、いたるところで陥没、隆起していました。
ハンドルをとられたのか、ガードレールに衝突したまま無人で放置された車もありました。倒壊した建物の前で愕然と立ちつくしておられた地域住民の方々の姿を忘れることが出来ません。

富来伝道所と同じハウスメーカーさんによる耐震、免震構造であったため柱の傾きや損壊は免れましたが、複数箇所で外壁サイディングがずれて隙間が出来てしまいました。
５月、雨水が入らないようにする補修が行われました。

会堂内には、内壁（壁紙）が破れてしまった箇所が多くあります。高所など、セルフ補修が出来ない箇所も多いため現在、ハウスメーカーさんに見積もりをお願いし、修復を検討しています。

地震発生直後、内城牧師の車の天井にヒビが入り、水漏れ（電気系統が破損）してしまったため、震災支援のシェアカーをお借りしました。幸い車は修理され、被災地での活動に用いられています。

全国の諸教会よりお便り、祈りのメッセージが届き、とても励まされています。

震災直後に教会学校の生徒が祈りを込めて描きました。

富来伝道所

地震発生直後、会堂内が散乱、内扉のレーズも外れ、扉が開けられないほどでした。羽咋に戻らなければいけなかったため、当日は電気のブレーカーを落とし、水道栓をとめて、そのまま伝道所を後にしました。その後、長く断水が続き、断水中の日曜日には、ポリタンクと雨水タンクの水を使ってトイレを利用していました。

外庭は隣家の屋根瓦が積み上がり、庭を覆っていました。会堂のコンクリート階段のタイルが基礎からずれて割れてしまいました。外壁タイルの剥離は地震直後、階段は余震による被害です。

2007 年の能登半島地震の後に建てられた耐免震構造であったため、柱が折れずに守られましたが、地震体験車のような揺れによって内壁がたわみ、壁紙がいたるところで破れてしまいました。見積もりを出して頂き、補修の検討をしています。

屋外に壁付けされた給湯･貯水タンクは、固定金具を壊して根元から折れ、倒れたエアコンの室外機と共に損壊してしまいました。

現在、給湯設備は中部教区からのご支援によって交換、復旧し富来伝道所を宿泊場所として利用して、外海の孤立地区に遣わされている学生ボランティアの方々にも喜ばれています。

羽咋白百合幼稚園（震災直後）

園庭の地割れ

園舎内

作成：中部教区現地委員会

羽咋教会、富来伝道所　内城恵牧師

昨年 12 月のクリスマス礼拝、そして 31 日に「年末祈祷会」を行い、感謝をもって 2023 年を終えた翌 2024 年 1 月 1 日、富来伝道所にほど近い場所で最大震度7を記録した「能登半島地震」が起こりました。私どもは、2007 年の春に起きた能登半島地震の後、祈りとご支援を頂いて現在の会堂と牧師館を建築して以来、感謝をもって、一週一週の礼拝と、地域との交わりを大切に歩んでまいりましたので、甚大な被害が奥能登の広域に及ぶ状況に、心震える思いをもってこの数ヶ月間を過ごしてまいりました。教会員の中には家屋が被災した方もおられ、金沢方面に避難して志賀町に戻れなくなってしまった方もおられます。

そのような中、富来伝道所においては、断水の解消後、破損した給湯設備が中部教区の支援により復旧出来たことで、3月から北陸学院大学等の学生ボランティアのために、また8月からは日本基督教団主催の被災地・被災教会ボランティアの宿泊所として用いられています。震災復興の祈りのうちに結実した会堂が、再び起こった地震の後に、感謝の応答として用いられていることに感謝をいたします。

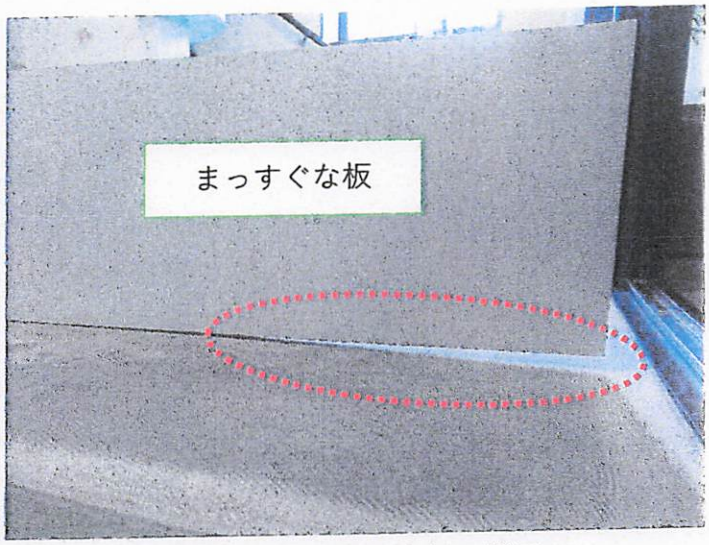
羽咋教会、また富来伝道所の外壁や内壁も所々ひび割れていますが、2007 年の地震後、耐震強度の高い建物として建てられ、安全な使用に問題はありません。加えて、羽咋教会の長老が日本基督教団の委託により復興支援ボランティアの支援に関わらせて頂けることにも主の導きと信じ感謝しています。そして、今こそ地域に福音の光りを届ける教会の役割を覚え、祈りつつ復興に励んでいます。

羽咋教会、富来伝道所、また関連施設である「羽咋白百合幼稚園」や学童クラブ「羽咋ゆりっこ児童クラブ」も皆様の祈りとご支援の中において頂き感謝いたします。去る 5 月 28 日(火)に「石川地区総会」が羽咋教会を会場に開催されました。また 11 月 23 日(土)には「石川地区信徒大会」が羽咋教会を会場に行われる予定です。能登の教会のために、共に祈りを合わせる時となることを願っています。

令和6年1月1日に発生した地震による建物への影響について　2024.1.10

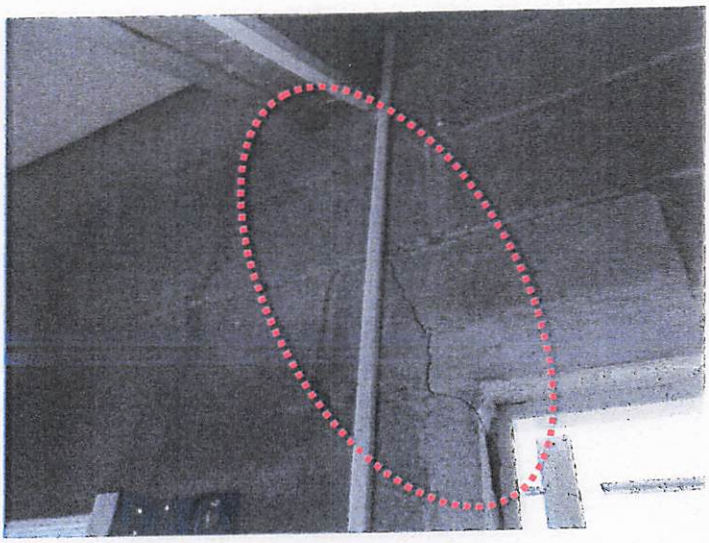
・調査日時　令和6年1月10日　午後1時
・調査者　　一基建設㈱　鈴木
・調査場所　日本基督教団魚津教会地内
・調査方法　目視及び打診

1Fホール　床塩ビシートの剝れ

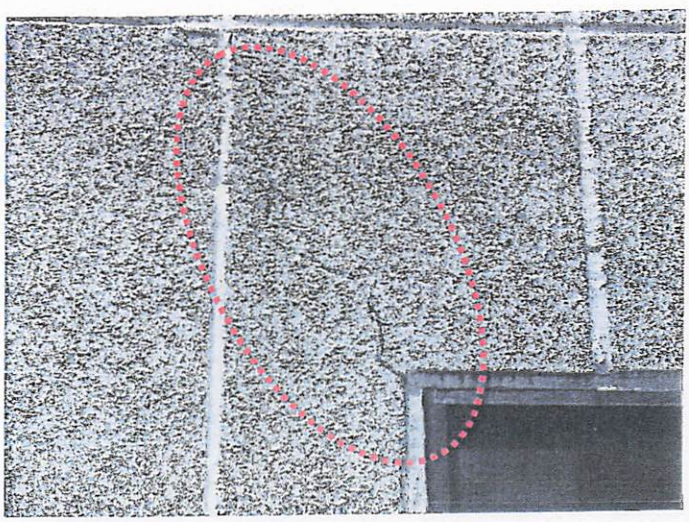


1Fホール　床の隆起の様子

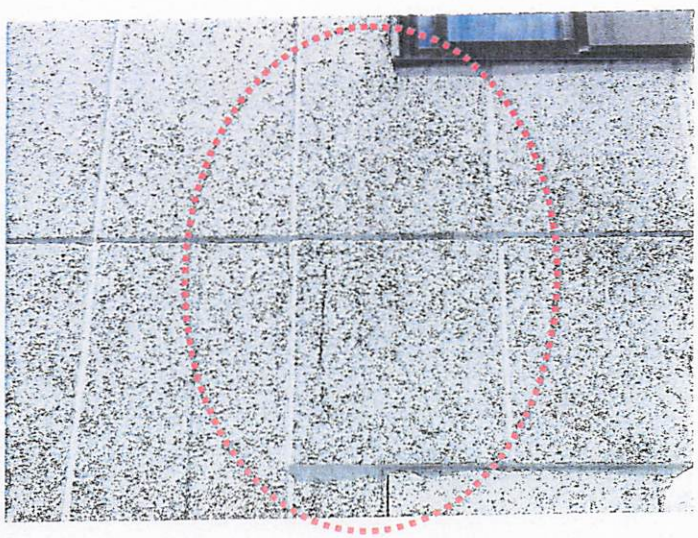
1Fホール　壁の亀裂の様子



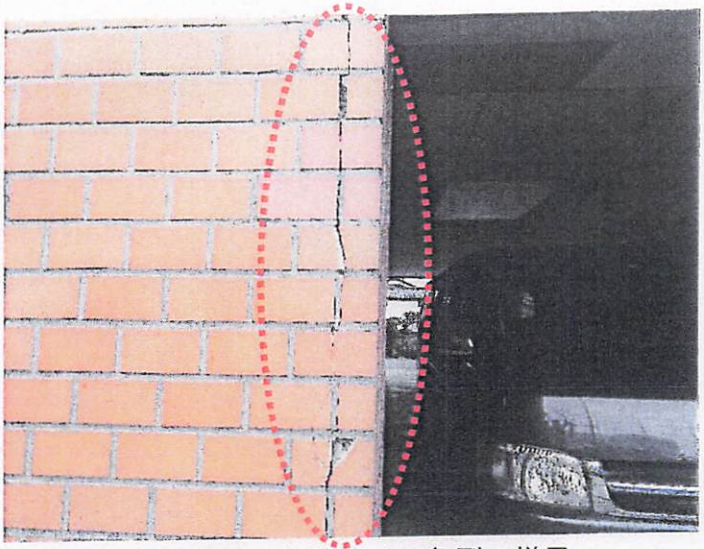
1F物入　壁の亀裂の様子



2F外壁　亀裂の様子

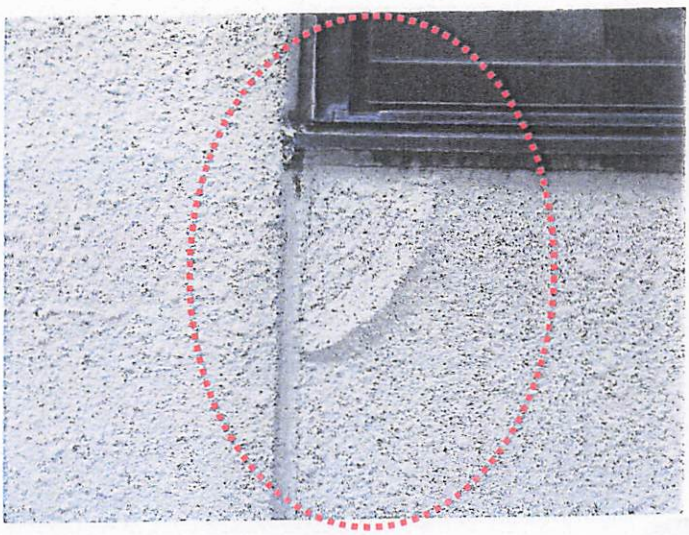


1F外壁　亀裂の様子

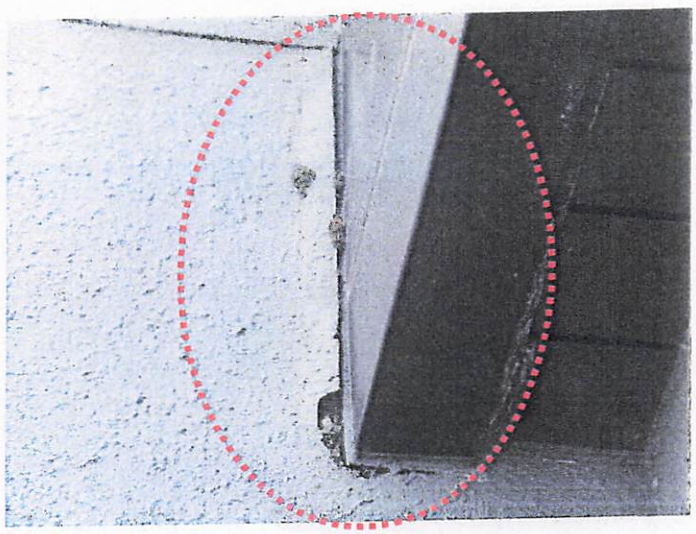


1F駐車場　外壁タイル亀裂の様子

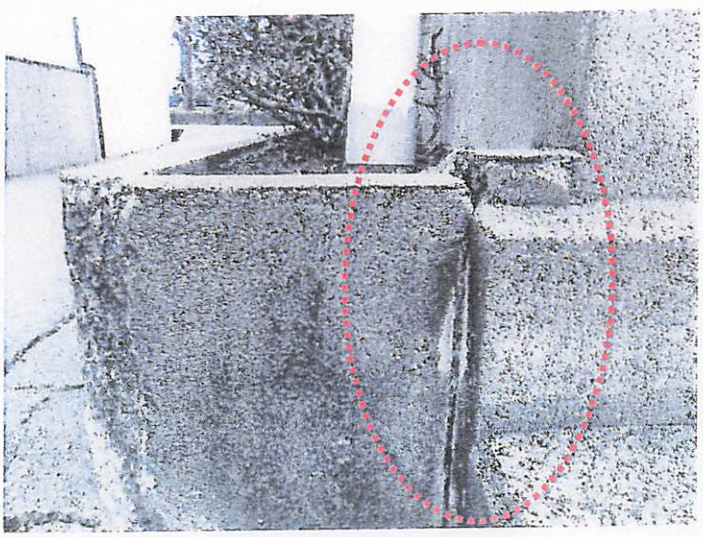
1F駐車場　土間亀裂の様子



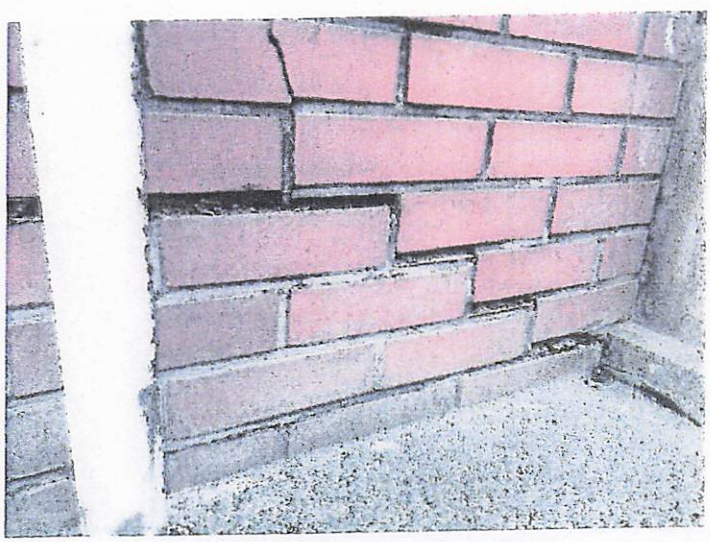
1F外壁　亀裂の様子



エレベーター塔外壁　亀裂の様子



外部　花壇付近　沈下の様子



外部　花壇付近　断裂の様子

＜まとめ＞令和6年1月10日

今回の地震では建物の1.2階部分に比較的多くの亀裂や破損が見られました。

1F床の隆起や床材の剝れ、内外壁の亀裂などがあった他、駐車場の土間にも亀裂がありました。

又、建物全体の大きな傾きや、建物の崩壊につながるような損傷は見られませんでしたが、

3階部分の壁にも細かいクラックが見られ、地盤面付近から最上階まで被害があり、地震の大きさと

揺れの強さを物語っていると言えるでしょう。

今後、更なる余震の大きさによっては1Fホールの壁や駐車場の外壁タイルなどの崩れ、

外壁や土間などに発生した亀裂からの雨漏りによる建物の劣化などには対策が必要です。

修繕計画としては、1Fホール、物置の亀裂の入った壁の補強や床の貼り直し、

外壁面や土間に発生した亀裂のコーキングによる防水処理、外壁タイルの貼り替えなどの

検討が考えられます。

今後も余震が繰り返される中で、建物の周囲にわたり地盤の変化には注意すべきでしょう。

・報告者　一基建設㈱　鈴木

＜追記＞令和6年6月10日

先日の大雨による2F事務所の、窓付近からの雨漏りについて報告いたします。

窓の周囲の外壁に大きな亀裂が無い事、又、サッシ廻りのコーキングが良好な状態である

事から、地震による亀裂や破損からの雨漏りの可能性は低いと思われます。

窓の直上にエアコンが設置してありますが、外壁を貫通している配管の周りにコーキングが

見られませんでした。穴を塞ぐように配管カバーは設置してありました。

ここからの雨漏りの可能性は高いと思われます。

普段では吹かないような方向からの強風や、それに伴った豪雨が、配管カバーの中やサッシの

隙間に入り込んだのではないでしょうか。

もう一点、玄関の照明器具に貯まる雨水についてですが、これは地震以前には見られなかった

事から、地震によって外壁に発生した亀裂や、玄関屋根などに出来た隙間からの雨漏りの可能性は

高いと考えられます。

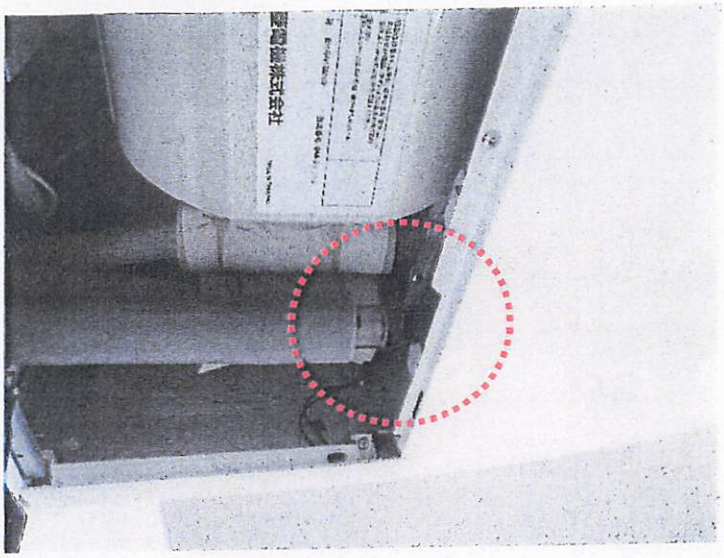
対策としては、雨水の進入箇所を断定し、コーキングによる防水処理が

必要でしょう。

・報告者　一基建設㈱　鈴木

＜追記＞令和6年6月28日

3F礼拝堂の天付エアコンの水漏れについて報告いたします。



エアコンカバーを外し確認したところ、内部のドレン配管が外れていました。

これは普通に使用していて外れることが無い部位ですから、地震の揺れによって外れたものと考えます。

天付けエアコンの為、天井から吊って設置していますので、より大きな揺れに繋がったと想像できます。

もう一点、先日もご報告させていただいた玄関照明付近の雨漏りについて追記致します。

本日も照明器具内部に雨漏りが確認出来ました。

玄関屋根からの雨漏りが、電線を通じて照明器具内に侵入したものと考えます。

屋根の上から目視しましたが、屋根材には穴開きや、大きな破損個所は見られませんでした。

それにしては、本日は無風で小雨程度の割に侵入した雨水の量は多いと感じました。

この事から、屋根AT材のカシメ部分が、地震により全体的に緩んだ可能性があると考えます。

その場合、屋根全体からの雨漏りですから、雨水の進入箇所を断定して防水処理というのは難しいです。

又、コケの生え方から元々屋根勾配が緩い事も問題で、対策としては立平葺きへの葺き替えが必要です。

・報告者　一基建設㈱鈴木

2024 年 10 月 29～31 日　第 43 回日本基督教団総会

2024 年 10 月 30 日　報告会